



子どもたちに核のゴミのない寿都を！町民の会

事務局 048-0401 寿都郡寿都町字新栄町 101-6

TEL/FAX : 0136-62-3630 kakugomino@gmail.com

<https://www.facebook.com/106569234530018/>

No.9 2020年11月7日発行

【小泉元総理講演会 無事に終了】

11月3日はまさか?!まさかの日でした。私たちのほとんどが経験した事のない大イベント!!

小泉純一郎元内閣総理大臣をお招きして「日本の歩むべき道」と題した講演会を開催することができました。天候が悪いなか、430人もの方々が集まってくださいました。

小泉さんは、フィンランドで建設中の最終処分場を視察した経験を力をこめて語ってくださいました。



「地震もない火山もない国だからできる。日本では作る場所がない。日本では地下を掘ったら温泉が出てくる」という話には、温泉をもつ寿都町民として深く頷きました。核のゴミだけにとどまらず、福島原発の事故処理が手の施しようがないこと、総理大臣として原発を推進する立場だったが、原発を止めなくてはダメだと思ったこと、再生可能エネルギーを生かして原発ゼロを目指すべきといったことなど、原発問題全般に関わる話をしてくださいました。講演の後半には、第二次大戦や日米関係、尾崎行雄にまで話が及び、かつて国を背負った総理大臣としての幅広い見識を披露してくださいました。78歳というご年齢にもかかわらず、立ったまま1時間半にわたって原稿もなしにしゃべり続ける姿に感服しました。

最初に紹介された「過ちを認めざるが過ち。自分の起こした過ちを認められない事が一番の過ち」、最後に紹介された「少にして学べば壮にして為すことあり。壮にして学べば老いて衰えず。老いて学べば死して朽ちず」のお言葉は、私たちの心に響きました。原発を推進してきた間違いに気づき、それを正して今の活動を始められた小泉さん、日帰りではるばる寿都まで来ていただいた小泉さんに本当に感謝しております。

最後に、花束を渡した子どもたちの頭を一人一人なでていただき、「みんな可愛いマスクしてるねー」と笑顔で気さくに話しかけてくださいました。子どもたちも本当に素晴らしい経験をさせていただきました。

今回の講演会は、町民の会だけでは成し遂げられませんでした。事前に呼びかけたところ、寿都町内はもちろん、黒松内町や島牧村、岩内町、伊達市、札幌市、遠くは釧路市からも、たくさんのボランティアの方々が集まってくださいました。転勤で寿都を去った懐かしい人たちも駆けつけてくれました。入場整理券の配布、入場者名の把握、コロナ対策、椅子や演壇の準備、駐車場の交通整理、スタッフバッジの作成、受付、報道対応、動画撮影・配信など、こなさねばならない仕事は多岐にわたりましたが、小さなひとつの力が二つになり、四つになり、大きくなって、小泉さんの講演会が成功しました。皆さんのおかげです。本当にありがとうございました。

講演会の様子は町民の会のYouTubeチャンネルにて視聴することができます。当日会場にいらっしやれなかった方にも、ぜひご覧いただければと思います。

なお、おなじく11月3日に行われた北海道子育て世代会議のイベント「寿都自然エネルギーフェス 風を感じて」も大成功のうちに終了したということです。本当に寿都に風を感じられた一日でした。

【残念ながら、役場関係者は参加少数】

残念だったのは、小泉さんに「喜んで会う」と言っていた片岡春雄町長の姿が見えなかったことです。招待状をお送りしましたし、役場からも、町長夫妻と副町長が参加すると事前に連絡をいただいております。もちろん小泉さんにも町長出席の旨をお伝えして、講演前に歓談していただく準備を整えていたのですが、いつまで待ってもお越しにならない。「誰とでも会うよ」と小泉さんは笑顔で待っておられました。とうとう講演時間に…。驚きました。まさか、元総理大臣とのアポをドタキャンする首長がいるとは思っていませんでした。結局、町長に用意していた席は空いたまま、小泉さんの講演が終わりました。

なお、11月4日の朝日新聞には「町長は欠席」と報じられています。記者が町長に取材したところ、「悩んだ揚げ句、行かないことにした」と話したそうです。私たちにはその連絡もありませんでしたが…。

会場にお越しいただいた役場関係者も少なかったです。町長が「勉強しましょう」と呼びかけているのですから、町長自身も役場の皆さんも、賛成反対関係なく、フィンランドの最終処分場を実際に見た小泉さんの話を聞いて、ともに勉強していただきたかったと思います。

【写真アルバム】



町の実情を小泉元総理に訴える



駐車場整理は任せろ



私はウニが好きなんだよ



ご寄付に感謝！



名司会者



元総理の歓迎挨拶は緊張する…



430人の来場者で、びっしり満席

< 楽屋裏話 >

- ① 小泉さんが来ていただくことに決まって喜んだ私たち。しかし、どうすればいいの？ チケットを売る？ でも、無料でみんなに聞いてほしいよね。だからといって無制限に受け入れることにしたら、町民が聞けないよね…。喧々諤々の議論のすえに、無料の入場整理券配布。意外と良いアイデアだったんでないかい？
- ② 行きのクルマの中で文献調査について聞いた小泉さん「20 億円か。町の予算は 50 億円？ でかいな」。隣に座る弁護士の河合弘之さん「それを何に使うの？ 洋上風力発電？ 矛盾してない？」。小泉さん「本当だな。矛盾だ」。
- ③ 随行の方々を乗せたクルマの運転手を務めた元測候所の伊藤さん、なにを勘違いしたのか、豊浦インターで高速を降りてしまい、皆さんに突っ込まれました。「後ろのクルマ、ついてきていないですよ」。伊藤さんは、前日に千歳入り。新品の革靴を持参したのに、ホテルで確認したら左側が二つ。あわてて千歳のイオンに買いに行ったそうです。自分のペースでトイレに行けないかもとオムツ装着で運転してくださったとのこと。お祭りでもいつも楽しい姿を見せてくれる伊藤さん、今回も町民を笑わせてくれました。
- ④ 小泉さん一行は予定より早く、13 時過ぎに到着。13 時半開場だったため、お客さんの入りも良い。急遽、14 時過ぎに、随行の河合弘之弁護士と城南信用金庫の吉原毅名誉顧問に登壇をお願いし、ご挨拶いただくことに。さすが場慣れしているお二人ですね。小泉さんが寿都に来ることになった経緯などご紹介くださいました。町民の会が小泉さんに送った手紙のことや小野有五北大名誉教授からも依頼されているんだと、10 月の原発ゼロ・自然エネルギー推進連盟の例会で河合さんが小泉さんに言ったところ、「じゃあ、行こう」という話になったとか。
- ⑤ 吉野寿彦共同代表が挨拶で「まさか私の人生で、元総理大臣の歓迎挨拶をすることになるとは思ってもいませんでした」。控えていた小泉さんが大笑い。「そりゃ、そうだろう」。
- ⑥ 町民の会賛同人である小野有五北大名誉教授から事前にお願ひしました。「文献調査への応募を批判してください」。しかし、小泉さんは、「原発を止めることが先。先に処分場をつくったら原発は止まらなくなる、寿都だけでなく日本では地下に埋められるような安全な場所はない」。講演では徹底して「まず脱原発！ 固い岩盤のフィンランドでさえ地下水がしみ出している」と危険性を訴えられました。これには、小野さんも感心。「個人批判を避け、正論を訴えたのはさすがだ」。
- ⑦ 小泉さんの隣に花か盆栽を置けないだろうか。町内で尋ねると、タジルシ山本さんを紹介していただきました。元総理に負けない立派な松が光っていました。タジルシさん、どうもありがとうございました。
- ⑧ 「何もできていないから、せめて差し入れをしたい。何人いらっしゃるのですか？」と町内の方から連絡があり、「小泉さんたち一行が 6 人、スタッフも 30 人以上になるから、お気遣いなく」と返答したのですが、驚きました。寿都銘菓がドッサリ！ 皆で美味しくいただきました。ありがとうございました。
- ⑨ 花束を渡した子どもたち。リハーサルするときには緊張すると大騒ぎでしたが、終わったあとは、「小泉さん、優しかった。頭をなでてくれた」とご機嫌でした。
- ⑩ 町民の会との歓談の場で、寿都名物がウニだと聞いた小泉さん「いいねえ。私はね。ウニをトーストして食べるのが好きなんだ。核のゴミとは関係ないウニを食べてみたいね」。残念ながら、小泉さんは日帰り旅行が基本ということで、泊まっていただくことができず、寿都の美味しいものも召し上がってもらえませんでした。寿都を去る小泉さんを送る吉野共同代表が「小泉さん！ うちの自慢のものを送るからさ！」と声をかけると、大きく手を振ってくれました。